

市民・社会福祉専門職・従事者の

「学び」を 支援する

大阪市社会福祉研修・情報センターは、平成15年1月30日、社会福祉に関する各種の情報を総合的に提供し、社会福祉に関する知識の普及、啓発等を行うとともに、社会福祉に携わる人材の確保及び育成をはかることにより、市民の福祉の増進に寄与することを目的に開設されました。平成25年に開設10周年を迎えるにあたり、人材育成・研修に関して、その歩みを研修受講者の視点から振り返り、あるべき姿を考えてみたいと思います。

「押さえつけ」から「導き」へ 考えが180度変わりました

▶ 有限会社永世会グループホーム
成寿苑

管理者 田中規子さん

▶ 講座名：
大阪市認知症介護実践リーダー研修

燃え尽きて、 職場を渡り歩いた過去

田中規子さんは、成寿苑に入職して丸5年になります。入職以前は、准看護師として病院に務め、以降、訪問入浴1年、訪問看護で務めた3年間でケアマネジャー（介護支援専門員、以後ケアマネ）の資格を取得。その後、ヘルパーステーション併設の居宅支援事業所に職場を移り専任ケアマネに就任。田中さんは医療職から福祉職までできるマルチなスタッフとして「自由にさせてもらっていた」と話します。

そんな田中さんが「認知症介護実践リーダー研修」を受講したのは平成21年のこと。管理者としてスタッフをまとめる上で悩みがあったのです。

「スタッフは、介護福祉士、ヘルパー1級・2級、資格試験の勉強中の人、資格はないが経験豊富な人など、学んで来た道のりも違えば、仕事観もさまざま。それゆえに職場では、ケアの方法が割れることが少なくありませんでした。介護に正解はなく、利用者さんの1日は、介護者しだいで決まるもの。管理者として何とかしなければと考えていました」

研修は、9日間で3カ月に渡ります。講



▲フォローアップ研修で報告する田中さん

義のほか、班になって話し合ったり、発表したりして、自分の考えを深めます。特に印象に残った教科は「『人材育成の考え方 スーパービジョンとコーチング』です。私の根本的な価値観が覆されました」と田中さん。

入居者と同じように、 スタッフにも価値観があった

「これまで、仕事をしていく上で一番大切なのは、入居者の価値観だと確信していました。これを共有できないスタッフがいたら『考えが間違っている』と注意した後『私は私のためにいってるんじゃない、入居者さんのためにいっているんよ!』というのが口癖でした」

ところが研修を受け、スタッフにも価値観があることを知ってから、「私とは異なるスタッフの意見を『この人はこう考えているんやな』と素直に受け入れられるようになったんです。この変化は大きかったですね」

スタッフがやるべきことをやれなかった時も、以前の田中さんなら「なぜできない？1年後のこの方がどうなるか考えれば、やらなくてはならないとわかるはず」と突き放していました。しかし今は「全員で、プラスマイナス100%ならいいのよ」と伝えています。完璧主義から「能力の違いをお互い補え合えればいい」という考えに変わったそうです。

「1年後の利用者さんが見えるのは、私が看護師をしていたから。目の前の仕事を覚えようと必死のスタッフには見えなくて当たり前なんです。そこに気がついた。最近では『3ヶ月後にどうなっていてほしいの』と短いスパンで想像してもらい、そして答えを探してもらうように導いています」

研修によって考え方が180度変わった田中さん。リーダー研修の終了後受講している年1回の「フォローアップ研修」で、今年、研修の成果を発表しました。すると「『スタッフの価値観がわからず反省している』という言葉聞いたあるスタッフが『田中さん変わりましたね』と言いに来てくれました。これまでの私は、なまじ、いろんな経験があったからか、自信過剰になっていたのでしょう。今はスタッフに育てられています」

一人の学びがみんなに共有され 大阪市が必要としている会へ成長

研修の効果はまだあります。

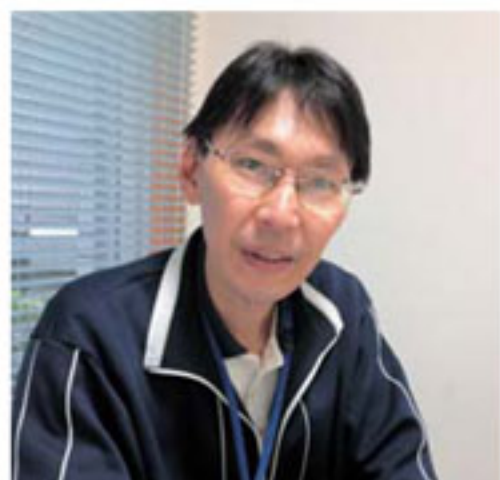
「修了者のみなさんと最初は飲み会のつもりで集まったのですが、ありがたいことに指導者の方から声かけがあり、集いに参加することになりました。一人で学びにしているつもりだったけれど、いつのまにか広がって、成長しているという実感があります。モチベーションはグンと上がりました」と田中さん。

「研修を受ける前の私は、ただ熱くて、3年はがんばれるけど、燃え尽きてしまう。自分の中で何なのかわからなくなっていました。現場のスタッフならよかったかもしれません。楽しかったし、技術はステップアップはしていたと思います。けれど、管理者という役割を与えていただいたのであれば、スタッフを

守る責任があります。リーダーについて、チームケアについてもっともっと学んで行きたいと思います」と話してくれました。

講座修了者で発足した 研究会で楽しく モチベーションを向上

- ▶ 社会福祉法人亀望会
ケアハウスコスモスガーデン
施設長 多田裕二さん
- ▶ 講座名:職場研修担当者養成研修



根拠のある体系的な プログラムの必要性を感じた

多田裕二さんは平成18年度、第1回の「職場研修担当者養成研修」を受講しました。

「法人では平成10年に特養、平成12年にケアハウスとたて続けに開設したところで、そろそろ体系的な研修の整備が必要だろう、また研修の実施にあたっては理屈もいるという判断で、私が研修担当として受講することになりました」

これまで、施設内では、食中毒や感染予防、救命救急など、知識を増やすためのプログラムはあったそうですが、体系的に学ぶことは多田さんにとって初めてだったとのこと。受講の感想は「全社協の研修体系などをみて、これまで漠然と感覚的にとらえていたキャリアの道筋が、根拠のある体系的な標準プログラムとして押えられていることに驚き、必要性を強く感じました」

逆に、ディスカッションについては、若干の物足りなさを感じたそうです。「成功事例は参考になりましたが、もっと受講者と関係性を深めた上で、半歩ぐらいはみ出したような話、裏話などを聴くことができたらと思っていました」

愚痴も言える気楽な研究会で 元気をもらい、少しずつ前進

多田さんがそう感じていた矢先に、

センターの発案で研修修了者を対象に「福祉の職場の研修推進研究会」が発足。多田さんは会長に就任しました。研究会は現在、3ヶ月に1回、1回2時間。前半の1時間は実践報告や講義で、後半の1時間はフリータイムです。特にフリータイムは盛り上がり、相互扶助的な意味合いもでてきています。

「研修担当者は孤独に陥りがちです。法人内で研修を行うには施設長などの幹部職員の理解、そして受講者となる他のスタッフの理解とやる気が必要です。しかし、なかなか伝わらないことが多いえ、取り組みが失敗して自暴自棄に陥ることもあります。しかし、同じ悩みを持つものが集まれば、愚痴もいえる。アイデアも交換できる。組織が違うから割に気楽な雰囲気は漂っています」

多田さんは、もっぱら相談役。別の施設担当者の話なども共有しながら、研修担当の“先輩”としてアドバイスしているそうです。

「当法人でつくった年間の研修プログラムを紹介すると、それを参考に、その人が所属する法人のプログラムを試作し持参してくる参加者もいます。『やらないとあかんと思いつながら、どうやっていいかわからない』というのが研修担当の本音。しかし、みんなでいろんな実践を共有すれば、少しでも前に進みます。集まりは、参加者のモチベーション維持・向上の役割は果たしていると思います」

国家資格はゴールではなく 「スタートライン」

高齢者分野で仕事に就いて今年で14年目の多田さん。社会福祉士の資格を取得して20年近くになります。

「国家資格はゴールでなく、むしろスタートライン。取得したら次は、福祉を取り巻く環境の変化についていかなければなりません。たしかに現場の介護職員は大変です。しかし、食事・入浴・排泄の介助だけを右から左にこなすだけなら、モチベーションは上がらないし、誰でもできる仕事になってしまいます。専門職としての地位を確保するためにも、施設のサービスのレベルを上げるためにも、常に研鑽が必要だと私は思っています。研修は、人財教育のすべてではありませんが、研修は大きな一歩を踏み出すきっかけになりました。もし職場研修担当者養成研修で刺激を受けていなければ、現在は施設内で行っ

ている3階層の中堅職員研修も1階層のままだったかもしれませんね」

いろんな人と出会える研修は、 私の栄養になってます

- ▶ 十三地域ネットワーク委員会(淀川区)
保健・医療・福祉ネットワーク推進員
岡崎由紀さん
- ▶ 講座名:
地域福祉推進リーダー養成塾



他地域のフィールドワークに 興味津々

岡崎由紀さんは、平成18年に保健・医療・福祉ネットワーク推進員に就任しその初任者研修を受講し、ネットワーク推進員として、今年6年目を迎えています。就任以前より、PTA活動を始め、いろんな地域活動に参加し、いまでは地域と“切っても切れない縁”だとか。「地域のためになるかもしれない」と思う研修や講座を見つけたら即、申し込むのが習慣になっているそうです。

今年度開催中の「地域福祉推進リーダー養成塾」を受講した時はどうだったのでしょうか。

「淀川区の推進員が集まる連絡会で配布された資料の中に受講募集のチラシを見て、『私が受けるべき講座だ!』と直感したんです。他の地域に行つてのフィールドワークに興味がありましたし、フィールドの一つに防災のしくみについて学べる現場があったこと、それと推進員活動のない土曜日実施というのが受講の決め手になりました」

私の活動はPTAから始まった

岡崎さんのスケジュールと合わず、防災のフィールドワークは参加できませんでしたが、その代わりに小学校の福祉教育の現場を訪ねました。

「他地域の取り組みは参考になります。私も地域の小学校とは、PTA時代から縁があり、車いす・アイマスク体験会、ウエルおおさか 2012.12.vol.81 ● 2

階層 求められる役割・能力 青色:役割	組織運営・管理 (組織経営管理・メンバーシップ・リーダーシップ・人材育成)						
	第5段階▶上級管理者レベル (経営職、トップマネジャー) 法人理念・経営方針の策定 事業計画の策定 組織の財務管理と労務管理の統括 ・自身の施設・事業所のサービスをモニタリングし、運営統括責任者として、組織運営を調整し、自組織を改善・向上させることができる。	制度の構築と運用、改善	経営への応用 経営マネジメント			体制整備	
第4段階▶管理職レベル 事業ごとの事業計画策定 事業ごとの経営管理 事業ごとの労務管理 リスク管理 ・施設・事業所等の運営・経営環境を理解し、他部門や地域の関係機関と連携・実践する。 ・教育指導者として教育研修プログラムを開発・実施・評価する。	(適切な制度運用) 実践と展開	自職場の理解 経営マネジメント 顧客満足		技術の活用 育成推進			
第3段階▶主任・リーダーレベル 上級管理職の補佐 チームリーダーとしての部下への指導・育成 ・担当業務全体の遂行に責任を持つとともに、問題解決、業務改善を行う。 ・事例研究等を通じて自らのスキルを高める。	制度・規定の理解 人事考課制度		役割と実践	基本の理解と技術の修得			
第2段階▶中堅レベル ・担当する業務において、一人で(指示なしで)行うことができる。 ・自己啓発に取り組み、自身の課題を解決できる。チームの中での自分の役割を見出し、行動することができる。 ・新入職員、実習生等に対し、助言・指導ができる。	基本の理解	基本の理解	役割と理解	従事者の基本としてのコミュニケーション技術 (基礎と技術)		メンバーシップの確立と実践	
第1段階▶新任職員 ・福祉の基本的な理念や法令等を理解し、指導・教育を受けながら、基本的な実践を安全に行うことができる。 ・法人・施設・事業所等の理念を理解するとともに、社会人としてのルール・マナー等を理解・実践する。						基本の理解	
教育内容	労務の理解と管理の実践	人事制度の理解と管理の実践	財務の理解と経営への応用	エルダー・チューター養成 ファシリテーター養成	部下の育成と能力開発 (コーチング、スーパービジョン)	コミュニケーションの技術	メンバーシップの理解と実践
	組織運営管理		人材育成		メンバーシップ・リー		

通学時の見守り、本の読み聞かせなど、子どもたちのために、いろんな活動をしてきました。一人目の子どもの時は、近隣とのつきあいがいいまま、子育てをしていました。二人目でPTAに入って生活は一変しました。スポーツ大会など行事は楽しいし、視野が広がりました。その後、青少年指導員、生涯学習の推進員、町会の女性部長と根を張って、現在のネットワーク推進員につながっています」

学び続ければ 助けられることが増えてくる

平日は推進員の活動に、週末は自由な勉強の時間に当てている岡崎さん。

「自然環境保護、認知症ケア、AED(自動体外式除細動器、Automated External Defibrillator)も随時受けています。みんな地域に関係のあることばかり。学び続けることで、助けられることが増えてきます。例えば、認知症の家族から相談があれば最新情報を提供することができます」

最後に岡崎さんの「学び論」について伺いました。

「インターネットで情報収集して勉強するのは効率的です。それと比べれば研修は遠回りですが、それだけの価値があります。なぜなら、人との出会いがあるからです。受講者は皆、『学びたい』という同じ思いできているから年齢に関係なく、気軽に話せます。いろんな人と接触できることが自分の栄養になっています。これからもどん欲に何でも学んでいきたいですね」

自分は、どうなりたいのか? そのためには何が必要か?

▶桃山学院大学社会学部社会福祉学科
教授 川井太加子さん



活用する専門職や組織の代表がつくったキャリアパス

大阪市福祉人材養成連絡協議会(以後、人材協議会)は、平成18年11月に設立され、現在は社会事業施設協議会、社

会福祉関係の職能団体、教育機関等11団体から構成されています。

平成22年9月より作業部会を設置し「福祉関係従事者生涯研修体系図」を作成しました。これは、全国社会福祉協議会が平成22年3月、専門職を対象に作成した生

共通の領域

緑色:大阪市福祉人材養成連絡協議会で付加したもの

業務課題の解決と実践研究)		福祉サービスの倫理と基本理念		メンタルヘルス・セルフマネジメント		多職種連携・地域協働・地域課題の発見と解決に向けて		リスクマネジメント	
トップとしてのリーダーシップ	組織経営課題の発見・分析 課題解決のための トップマネジメント	組織方針の決定と体制・環境整備 支援方策の検討と実施 職場環境づくり	サービスの質の管理と 環境整備	体制整備 対策の実践	要因分析 環境改善	職場管理	実践の点検とマネジメント	行政と他機関との連携 方針の決定 体制整備	制度の構築と運用・管理(コンプライアンスマネジメント) 方針の決定 制度の構築と運用・改善
トップを補佐するリーダーシップ	自職場課題と発見・分析 サービスの質の管理								
チームのリーダーシップ	チーム課題の発見・分析	チームによる実践と展開	ニーズに基づく 福祉サービスの チームによる展開	自己管理 チーム管理	自己目標の設定と管理	職場内の多職種連携・協働の理解 (チーム実践、仲間との連携)	職場内の多職種連携・協働の 推進	住民、地域社会、ボランティア等との連携・協働の実践 地域課題の発見 他組織や地域との関係機関との多職種連携・協働の 理解と実践	実践への展開 苦情への対応 (実践を通じた解決の推進)
	階層別の業務課題に対応した解決策の検討・推進	研究の意義と進め方	利用者・家族の理解に基づくニーズの把握と支援	自己理解 他者理解	職業理解と自己目標の 重要性	地域との連携・協働の 重要性	職場内の多職種連携・協働の理解 (チーム実践、仲間との連携)	リスクへの気づきと対応 リスクを生まない環境づくり	基本的理解 苦情の理解
	業務課題の発見・分析	研究の必要性理解 研究課題の発見と取り組み	福祉サービスの実践と 質の向上 住民・利用者満足	健康 管理の基本と実践	福祉サービスの特徴と 業務理解 接遇マナー				
	必要性の理解		利用者・家族の理解と支援	自己理解	福祉サービスの倫理と基本理念 (尊厳の保持・権利擁護)				
リーダーシップの理解と実践	業務課題の発見と分析 (職場の課題形成)	実践研究の推進	福祉サービスの基礎と実践	キャリアデザイン	身体 の健康	モチベーションマネジメント メンタルヘルス ストレスマネジメント	組織の中での多職種連携・協働 (専門性の理解、チーム実践等)	他組織や地域との専門職との連携・ 協働(専門性の理解、ネットワー ク構築、行政との連携等)	「コンプライアンスの理解と順守 苦情への対応
ダーシップ	業務課題の解決と実践	福祉サービスの基本理念	セルフマネジメント(自己管理と環境づくり)	多職種・地域協働	リスクマネジメント				

涯研修体系図に手を加えたものです。
体系図の中心には、各専門職が共通して学ぶべき事項を基盤にしています。専門技術はそれぞれ違っても、すべての福祉専門職が同じ目線で援助を学ぶことを目指しています。

大阪市版の体系図は、職務階層を5段階とし、それぞれに「求められる役割・能力」と、それに合わせて具体的な「教育内容」を示しています。「求められる役割・能力」において管理職レベルでは「事業計画の策定や組織の財務管理」を、中堅

レベルでは「新任職員、実習生等に対し、助言・指導」を加えました。共通の領域の組織運営・管理について、主任・リーダーレベル以下に「基本的理解」を、管理職レベル以上に「経営マネジメント、顧客満足」を加えました。さらに、心の健康に

必要な「メンタルヘルス」や他職種・地域協働については「地域課題の発見」を盛り込み、強化しました。

このように生涯研修体系図は「職業経歴上の道筋」を意味するもので、それぞれが自らその道筋を描きながら、将来に向かって努力し、研修体系の段階を登っていくわけです。

“絵に描いた餅”にしないために 研修体系とやる気をリンクさせる

専門職個人の場合は、まず大切なことは、自分が「どうなりたいのか」目標を掲げることが大切です。管理職や施設長として組織の幹部を目指す人、技術等の専門性を高めたい人、それぞれだと思います。

目標を見極めたら、今自分が生涯体系図のどの位置にいるのかを確認し、目標達成するために必要な研修の見通しをたてましょう。到達目標への道筋がこの図に描かれています。ただし、体系図を理解するだけでは目標には到達しません。“絵に描いた餅”にならないよう研修体系と研修受講や自己学習等のやる気をリンクさせることが肝心です。

一方、管理職や施設長などの立場にあり、組織内で人材育成を担っている人は、各スタッフを育成するのに、どのような分野の研修を受けさせるべきか、受講できている・できていないをこの体系図から知ることができます。下敷きにするものが何も無いのでは、どこに進んでいかかわからず、優秀な専門職であっても現場で燃え尽きて離職に発展する恐れがあります。そうならないために、生涯研修体系図はあるのです。福祉専門職のキャリアアップにおけるひとつの拠り所として、自分の将来像が見えない専門職や、組織の人材育成に悩む管理職にこそ活用してほしいと願っています。

他職種の連携や地域連携のしくみを 考える材料としても活用できる

もともとこの体系図は専門職を対象に作成していますが、様々な地域福祉活動に携わる人や団体、例えば、ボランティア団体やNPO、地域組織もこの体系図にある「組織運営・管理」「福祉サービスの倫理と基本理念」「多職種連携・地域協働」「リスクマネジメント」などは、参考になるのではないのでしょうか。活動内容等と照らし合わせながら、ぜひ活用していただきたいと思います。

母の介護に向けて、 心の準備ができました

- ▶ 浦武敏さん(住之江区)
- ▶ 講座名:「介護実習講座」(入門コース・ステップアップテーマ別コース・ステップアップ9日間コース)

初めての料理、 翌日から母に食べてもらった

浦武敏さんは、平成21年に「介護実習講座」を受講しました。『ウェルおおさか』の講座紹介ページでみつけたそうです。受講のきっかけは「同居している母が80歳を過ぎ、食事をつくるのが難しくなっていました。そこで料理を勉強しようと思ったんです。人づきあいが苦手な研修などほとんど受けたことはなかったのですが、一念発起して申し込みました」

3日間の「介護実習講座入門コース」はキャンセル待ちの人気の講座で、浦さんが受講した日も定員20人が満席でした。

「30-40代の若い人もいたし、男性も4-5人参加されていたかな。調理実習やベッドのシーツを張るコツなどを基本的なことをわかりやすく教えてもらいました。交替で体験しているうちに介護技術も、グループの中で人と接することも『何とかなるもんや』と自信がわいてきました」

鶏胸肉のやわらか煮、ほうれんそうと卵のココット…10種類以上のレシピをファイルしている浦さん。

「栄養があり、のどごしがスムーズで、簡単にできるから私と母にピッタリ。翌日から母に食べさせることができました。味は、まあまあです」

浦さんは受講してからほぼ毎日、キッチンに立ち、最近ではレシピを応用した料理にも挑戦中です。

介護現場の体験を通して “生きる”を考える

浦さんの母親は、まだ要支援・要介護状態ではありません。しかし、浦さんは「備えあれば憂いなし」と入門コースを終了した人が受講できる「ステップアップテーマ別コース(応用編)」「ステップアップ9日間コース」に参加しました。テーマ別コースは、入門コースの応用編で、移動、排泄など幅広くなり、より専



▲当時の資料を
ファイリングして
活用する浦さん



門的になっています。「本を見ながら自分でやるのと、直接、講師から説明を聞いてやるのでは、頭への入りやすさが全然違います」と浦さん。

3つの講座の中で、浦さんが最も印象深かったのは「ステップアップ9日間」のうちの3日間を特別養護老人ホームで実習したことでした。実際の利用者に対し、講座で学んだケアを提供します。

最初に体験したのは、ベッドに寝ている利用者に水分補給のゼリーを食べてもらったことでした。

「なかなか口を開けてくれず、こぼしてしまいうちも10分ぐらいかかりましたが、しだいに時間短縮ができるようになりました」

驚いたのは、入浴介助を見学した時のこと。

「湯船に入ることができず、浴衣の上からお湯をかけてもらっている利用者さんが、スタッフに対し悪態をつく場面がありました。私は少し緊張しましたが、スタッフは若いのに非常にうまく対応されていて感心しました。ホームの高齢者、それを支えるスタッフをまじかにみて、“生きる”ことについての思いが深まった気がします」

このほか、施設内の坂道や芝生の庭を車いすを押して、利用者とはしゃびながら散歩したりしたそうです。

講座を受けてご自身が変わったと感じる点についてうかがいました。「やるだけやって心の準備ができたので、母に何かあった時も慌てないでいられると思います。また、自分自身も積極的に外に出て行くことができるようになりました」

総合的な研修のしくみを導入した 成果があらわれ始めています

●桜美林大学大学院教授 大阪市福祉人材養成連絡協議会・前会長 白澤 政和さん



市内の研修機関が連携して、 研修体系を整備

地域における人間関係が希薄化するなかで、大阪市全体の「福祉力」をどう高めていくのかが、重要な課題となっています。とりわけ、専門職においては、大都市を中心として、介護職が大量に不足することが予測されるなか、福祉人材の「質の向上」とともに「量の確保」を図らなければならない時期にきています。その中で大阪市社会福祉研修・情報センターは、福祉人材養成において大きな役割を担っています。

平成17年9月に大阪市社会福祉審議会の「大阪市における福祉人材養成のあり方について」の提言を受けて、研修実施機関・団体、事業者、専門職、社会福祉協議会等が参画する「大阪市福祉人材養成連絡協議会」が発足し、センターはその事務局を担いながら、多様な研修を企画・実施してきました。

最も大きな成果は、これまで職能団体や施設連盟等が専門分野ごとに実施していた研修を持ち寄り、総合的な研修のしくみをつくり、新人、中堅、指導者、施設長などの役割を

明確にし、階層別の研修を企画したことです。

研修において最も重要な課題は、研修を受けた職員が職場へどのようにフィードバックしていくかということ。そのために、ひとつの柱として「施設長等運営管理職員研修」を実施し、施設長に研修の意義を理解していただき、研修を職場の年次計画に反映できるような体制づくりを狙いとしてきました。また、中堅・指導者を対象とした「職場研修担当者養成研修」では、一個人の研修受講を超えてOJT(職場内研修)を広げていくしかけをつくりました。このような働きかけにより、専門職の資質向上はもとより、職員の職場定着につながることを意図してきました。

専門職、地域住民の 福祉力を育て 安心して暮らせる大阪市内に

一方、市民参加の研修は、講演会、講習を中心に研修を進めてきました。今後の課題としては、区レベルでの人材育成です。なぜなら大阪市民全体を1か所のセンターに集めて研修することが、難しいからです。したがって、センターには、区の社会福

祉協議会、地域包括支援センターなど、住民同士が支え合う人材の育成の役割を担う機関等が、地域の特性に沿ったキメ細やかな研修を企画・実施できるようにサポートする役割が求められています。

専門職の資質の向上においては、一人ひとりの専門職の主体的な取り組みが重要です。現在、認定社会福祉士、認定介護福祉士の制度が整備されつつあります。このような中で専門職は、自らの業務を振り返り、さらに成長していくことが求められており、その支援にもセンターは関わっていかねばならないでしょう。

専門職がやりがいを感じられる環境・体制をつくるには、高い水準の仕事をしている人が、職場や社会で正当に評価される社会を目指していかなければなりません。そして、受講をきっかけに、主体的な研究会活動につながるような“仲間づくりの場”を提供することも必要です。

大阪市の福祉力を高めるため、市内の福祉専門職や地域住民を様々な組織や団体が協働して育てていく。センターは常にその中核的存在であることを期待しています。

大阪市社会福祉研修・情報センター 開設10周年の記念講演会を開催します。

テーマは、「人を援助すること」の意味を問い直す
～これからの福祉人材に求められるもの～です。



講演者は、岩間伸之先生(大阪市立大学大学院生活科学研究科教授)です。社会や制度等の変化の中で、これからの未来を見据え、人を援助することの理念・価値を改めて考えていきます。開催日は、1月19日(土)午後2時～4時、大阪市社会福祉研修・情報センターです。多くの方のご参加をお待ち申し上げます。詳しくは本誌11ページをご覧ください。

研修事業の変遷

(平成15年から平成24年まで)

社会情勢や行政施策、あるいは受講者のニーズによって研修内容は変化してきました。研修は大きく分けて社会福祉関係者研修と市民参加研修の2領域があり、開設当初は19コースでしたが現在は40コースに増え、10年間で通算64コースもの研修を実施し、延べ176,756人(平成15~23年度末現在)が受講しています。

ふたつの施設が統合し、 研修・情報センターが誕生

大阪市社会福祉研修・情報センターは、北区同心町で主に福祉職員研修を実施していた「大阪市立社会福祉研修センター」(昭和57開設)と西区阿波座で、市民向けに講演会や高齢者相談業務を行っていた「大阪市高齢者総合相談情報センター」(平成3年開設)が統合され、平成15年に開設されました。

キャリアパスを視野に入れた 社会福祉関係者研修

社会福祉関係者研修の軸となるのは、福祉職員の生涯にわたるキャリアパスを視野に入れた階層別研修です。平成15年度には、中堅職員と指導的職員向けの研修だけでしたが、「中堅職員研修Ⅱ」(平成18年度~)、「新任職員研修」(平成16年度~)、「施設長研修」(平成19年度~)が加わり、現在は5階層と細分化されています。そして、福祉職員の基本となる人権研修と心身の健康を守る「健康管理講習会」や「メンタルヘルス研修」を実施してきました。

スキルアップ講座は、社会福祉援助に関する多様なスキルを習得することを目的にしており、「コミュニケーション技術」をはじめ、受講者ニーズを反映しながら「ファシリテーションスキル」(平成19年度~)、「電話対応と来客対応の実践」(平成22年度~)、「アサーティブトレーニング」(平成22年度~)、「パワーポイントDEプレゼンテーション講座」(平成24年度~)と拡充しています。

また、少人数でのゼミ形式で理論と実践をつなぐことを重視した社会福祉ゼミナールは、「スーパーバイザー養成講座」(平成15年度~)をはじめ4講座を設定しています。

指導者と共に企画・実施する 「認知症介護研修」

平成15年度から「実践者研修」と「実践リーダー研修」、平成18年度から「地域密着型サービス認知症介護研修」を実施、平成23年度からは「実践リーダーフォローアップ研修」が委託事業として始まりました。

「認知症介護研修」においては、認知症ケアの現場で活躍する「認知症介護指導者」が企画・講義・演習を指導しています。センター職員と指導者による企画会議を開き、個々の研修内容を振り返っては、改善点を次回の内容に反映させてきました。センターはこの企画会議に事務局として、年間のアンケート集約・分析や各種資料の準備を行い、会議運営を支援して

きました。このように指導者と共に研修を企画・実施できたことは、大阪市にも評価され、「実践リーダーフォローアップ研修」実現に結びついたといえるでしょう。

自主的な研究会へと発展した 「職場研修担当者養成研修」

平成18年度より、個々の職員に対してだけでなく、福祉施設や法人がよりよいサービスを提供するために、職場全体の資質向上を目指して「職場研修担当者養成研修」が開始されました。また、平成23年度には、OJT(On The Job Training)の強化を目指して「福祉の職場OJT推進研修」がスタートしています。

職場内研修を行うには、職場全体の理解が必要であり、実行と成果が出るには時間がかかるといわれます。こうした中、受講者が研修での学びの実践を支援するためにも「仲間づくりが大切」との考え方から、修了者が自主的に研究会を発足。同会は、職場内研修の実践報告を行ったり、コーチングやコミュニケーションゲームを取り入れながら、メンバーの学習や情報交換の場の役割も果たしています。

市民の福祉学習ニーズに 応える市民参加研修

市民参加研修では、開設当初より、著名人を招いた100人規模の「社会福祉講演会」や「国際セミナー」を開催しています。「介護実習講座」は市民が介護技術を学ぶ場として好評で、毎回、定員を超える申し込みがあり「入門コース」(平成15年度~)以降も「ステップアップ・テーマ別コース」(平成16年度~)、「ステップアップ9日間コース」(平成17~21年度)などと拡充しています。

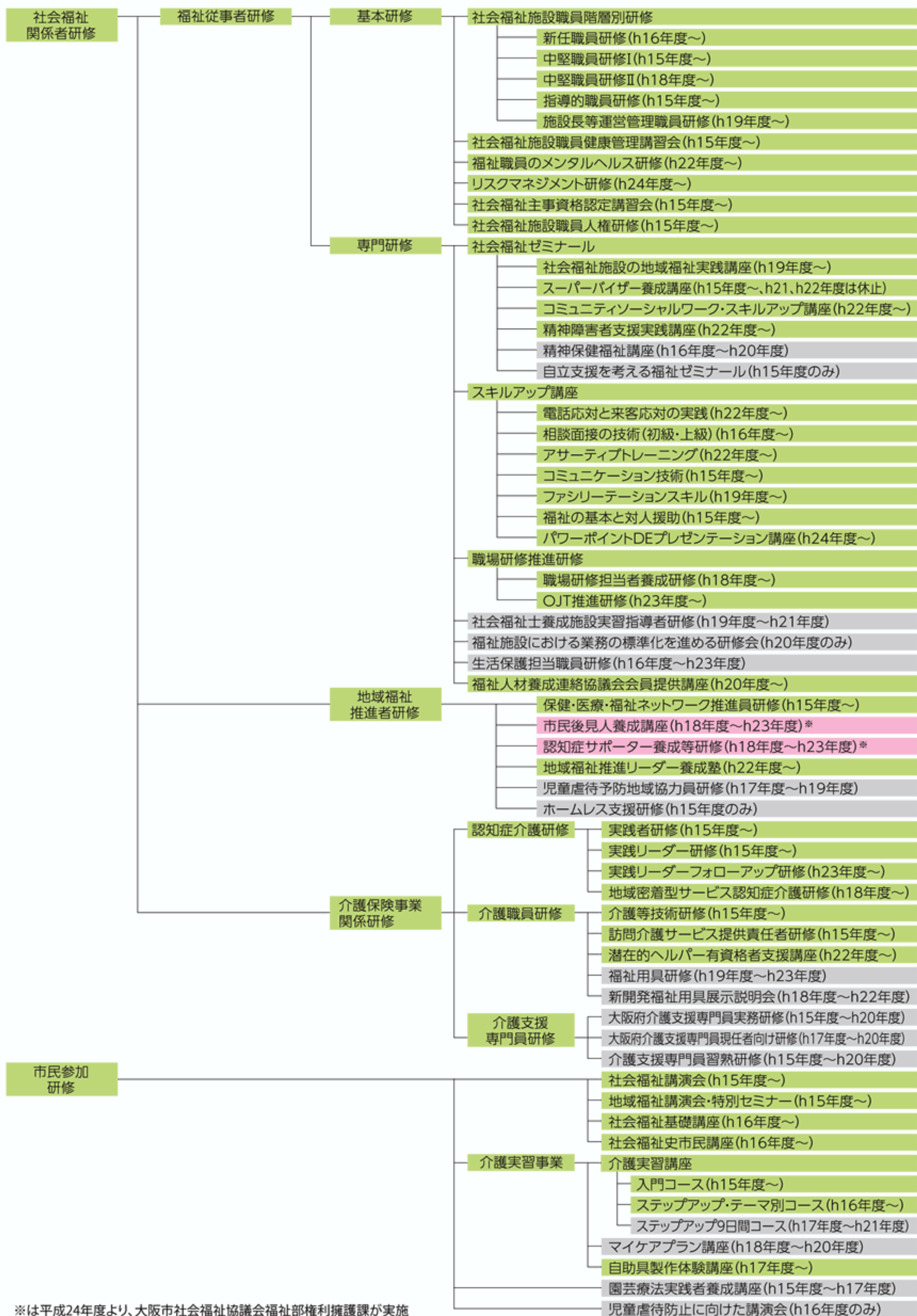
また、大阪の社会福祉の取り組みを歴史的に振り返る「社会福祉史の市民講座」(平成16年度~)は、冊子としてもまとめられています。

一方、地域福祉の担い手養成としては、地域における福祉ニーズの発見と相談、連絡調整の役割を担うネットワーク推進員を対象に、平成15年度より現在まで「保健・医療・福祉ネットワーク推進員研修」を実施しています。また、平成22年度から、地域福祉活動やネットワークづくりの手法を学び、地域福祉のリーダー的人材を養成する「地域福祉推進リーダー養成塾」を開催しています。

研修のPDCAサイクルの確立と 研修効果の「見える」化を実現

平成22年度、大阪市の事業仕分けにおいて、研修の指標や効果を求められました。これを機に、PDCA(Plan Do Check Action)の研修管理サイクルを用い、ニーズを研修内容に反映させました。具体的には「研修アセスメントシート」を開発・導入し、従来の「受講後アンケート」だけでなく、聞き取りによる講師評価、評価会議による担当者評価の3者による評価を実施。さらに平成23年度から、研修後の研修効果を1カ月後、3カ月後に、受講者と所属施設の両方にアンケートを依頼し、担当者が課題の分析を行い、プログラムの改善を図るしくみを構築しています。

社会福祉研修・介護実習事業研修体系 ()内は実施期間



※は平成24年度より、大阪市社会福祉協議会福祉部権利擁護課が実施

「学びを支援」10年の軌跡～写真ライブラリー～

開所式の様子(平成15年度)



平成15年1月30日に開設しました

地域福祉講演会(平成19年度)



多くの市民等が参加(会場は中之島の中央公会堂)

国際セミナー(平成23年度)



海外の最新状況が学べ、活発な質疑応答に

介護実習講座(介護)(平成18年度)



介護実習室にはベッド等の設備が活用できます

介護実習講座(調理実習)(平成18年度)



高齢者に優しい介護食の調理が学べます

ゼミナール(コミュニティソーシャルワークスキルアップ講座)(平成24年度)



少人数制で理論と実践を学ぶゼミナールです

健康管理講習会(平成21年度)



福祉職員の心身の健康管理を学びます

大阪市認知症実践リーダー研修(平成19年度)



グループワークで受講者同士の意見を交換

社会福祉講演会(平成20年度)



講師から日本の社会福祉の動向や実践を学びます

社会福祉史の市民講座(平成24年度)



大阪に息づく先人の実践を学びます



社会福祉史の市民講座をまとめた冊子を4冊発行

企画展示(平成16年度)



ハンセン病者を理解するための作品展を開催

企画展示(東日本大震災の報道写真展)



多くの人が惨状を目のあたりにしました

企画展示(福祉の歴史散歩)



北市民館関係資料展示

人材養成連絡協議会ジョイントシンポジウム
(平成23年度)

同心会社会福祉研究奨励賞授与式

図書・資料閲覧室



阪神・淡路大震災から東日本大震災までの支援のあり方をテーマにしました

日々の社会福祉実践の論文や報告に対して、同心会より賞を授与

多くの福祉専門書、DVD等の貸出を通して学びを支援しています

社会福祉研修・情報センターでは、今回特集で取り上げた研修のほかに高齢者や認知症、知的・精神障がいのある方などの福祉や生活支援、権利擁護に関するさまざまな相談や高齢者の無料職業紹介等の事業を実施すると

もに、指定管理事業以外でも大阪市成年後見支援センター事業や認知症サポーター養成等事業などを実施し、大阪市における社会福祉の研修・情報・相談等の中核的機能を担ってきました。



キャラバン・メイト養成研修



市民後見人養成講座



高齢者電話相談(現:休日夜間福祉電話相談)

あなたのお好みに仕上げます。

パンフレットやカタログなど、

作りたいものがカタチにならず困っていませんか？

当社が企画から納品にいたるまで、各専門スタッフが、

あなたのお好みに合わせて仕上げます。

デザイン、制作のことなら気軽にご連絡ください。

TOTAL CREATION
AD.EMON
株式会社 アド・エモン

〒530-0045 大阪市北区天神西町8-19 法研ビル5F
TEL:(06)6362-1511(代) FAX:(06)6362-1510 E-mail:info@ad-emon.com

<http://www.ad-emon.com>

(広告)

2013年
**社会福祉士養成
通信課程**

7 ^{国家資格取得へ} **つの特色!**

修了後も合格までサポート!
「国家試験対策講座」

パソコン完備の
「自習室」&「図書室」

レポート作成がスムーズに進む
充実の資料提供&講習会

“心と福祉の総合学園”だからできる、
メンタルサポートのノウハウ指導

「資格取得」に向けて、専任教員による
万全のサポート体制!

地下鉄駅から30秒!
スクーリングに抜群のアクセス

最短5日間!(実習免除の場合)
多彩な時間割から選べるスクーリング

一般養成
修業期間1年7ヶ月/定員140名

入学説明会

12/8[±]

15[±]・22[±]

14:00~

参加予約承り中!
参加希望の方は
左のQRコード、
またはお電話にて!



厚生労働大臣指定校 学校法人 夕陽丘学院
大阪国際福祉専門学校

〒543-0075 大阪市天王寺区夕陽丘町3-10
☎06-6771-4188 <http://www.oiw.ac.jp>

(広告)

講座案内

1

社会福祉講演会(第4回)
大阪市社会福祉研修・情報センター
開設10周年記念講演会
「人を援助すること」の意味を問い直す
～これからの福祉人材に求められるもの～

経済状況の悪化と安定した雇用機会の縮小、家族やコミュニティ機能の低下、新しい生活課題や複合的な課題の発生等により、地域生活はますます厳しいものになっています。このような状況の中で、福祉専門職には、地域における新しいニーズに対応できる柔軟性と支援困難な事例に対応できる高い専門性が求められるようになっていきます。

本講演会では、厳しい社会状況にあって、「人を援助すること」の意味を問い直すことによって、実践の拠り所となる対人援助の本質や価値にアプローチします。これは、広く福祉人材に求められる共通基盤となるものです。さらに、現代の新しい実践の動向として、地域を基盤としたソーシャルワークや地域における総合相談の動向についても紹介します。

- 対象者 大阪市内の社会福祉関係事業所に勤務する方や大阪市内在住・在勤者
- 日時 平成25年1月19日(土) 午後2時～4時
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター大会議室
- 定員 100人(先着順)
- 参加費 無料
- 締切日 1月12日(土)
- 申込方法 下記の「申込記載事項」を記入のうえ、ファックス、またはホームページからお申し込みください
- その他 申し込まれた方は、当日開始時間の5分前までに、直接、会場にお越しください。(定員を超過し、参加できない場合のみご連絡いたします)

2

社会福祉史の市民講座(第3回)
大阪のセツルメントの創成期の
実践家・佐伯祐正と
その弟・画家祐三との兄弟愛
～光徳寺善隣館90年の礎～

大正10(1920)年、現在の大阪市北区中津にある光徳寺の境内の一角に、光徳寺善隣館を開設。創設者の佐伯祐正は25歳。大正14年から15年にかけて、フランス・パリで開催された世界セツルメント大会に参加、その後イギリス・ロンドンのトインビーホール、アメリカ・シカゴのハル・ハウスを視察し、本格的にセツルメント事業を実践した。昭和10年代には、工業化に伴う地域の諸課題にも果敢に取り組み、また、多くの社会事業家とつながりながら、大阪における社会事業を推進しました。

本講座は、光徳寺善隣館の創設期から昭和20(1945)年6月の大空襲による焼失までを中心に、創設90年を迎えた光徳寺善隣館及び戦後開設60年を迎えた中津学園の歴史を学びます。

- 対象者 大阪市内在住・在勤・在学者など
- 日時 平成25年1月26日(土) 午後2時～4時
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター会議室2
- 定員 50人(先着順)
- 参加費 無料
- 締切日 1月15日(火)
- 申込方法 下記の「申込記載事項」を記入のうえ、ファックス、はがき、ホームページからお申し込みください

1 2 の申込・問合せ先

大阪市社会福祉研修・情報センター
 〒557-0024 西成区出城2-5-20
 ☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272
 URL <http://www.wel-osaka.jp>

3

第10回 大阪市立大学医学部&
大阪市立弘済院
ジョイントセミナー
～高齢社会を健やかに～

本セミナーでは、大阪市立大学医学部と大阪市立弘済院附属病院が、みなさまとともに「すこやか長寿」を考えます。

- 日時 平成25年1月12日(土) 午後2時～4時
- 内容 テーマ「認知症」を治療する
 - ・座長 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学教授 井上 幸紀
 - ・講師 大阪市立弘済院附属病院神経内科・精神神経科部長 中西 亜紀
 - ・大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科学教授 大畑 建治
- 定員 250人(先着順)
- 会場 大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室(阿倍野区旭町1-4-3)
- 参加費 無料
- 締切 1月7日(月)必着
- 申込方法 往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・参加希望者数を明記してください。

3 の申込・問合せ先

大阪市立弘済院管理課
 〒565-0874 吹田市古江台6-2-1
 ☎06-6871-8032 (土日祝日、年末年始を除く)
 FAX 06-4863-5351



申込記載事項

【必須項目】①研修(講演会)名、②名前(ふりがな)、③年齢、④連絡先住所(〒)、⑤電話、ファックス番号、⑥勤務先(所属)
 ※必須項目以外にも、必要な項目がある場合がありますので、忘れず記載ください

大阪市社会福祉研修・情報センター 会議室等貸室利用のご案内

大阪市社会福祉研修・情報センターの貸室は、利用4か月前から申込できます。(詳しくは本誌裏表紙をご覧ください)

【会議室等の使用料】

	時間区分 室名	定員	時間区分			
			午前 (9:30~12:30)	午後 (13:00~17:00)	夜間 (18:00~21:00)	昼夜間 (9:30~21:00)
4階	会議室(1)	99	3,800円	5,100円	3,800円	11,400円
	会議室(1)東	45	1,900円	2,600円	1,900円	5,800円
	会議室(1)西	54	2,900円	3,800円	2,900円	8,600円
	調理実習室	50	3,800円	5,100円	3,800円	11,400円
	介護実習室	36	5,700円	7,600円	5,700円	17,100円
	多目的室	18	1,000円	1,300円	1,000円	3,000円
5階	大会議室	144	5,800円	7,700円	5,800円	17,400円
	会議室(2)	60	2,900円	3,800円	2,900円	8,600円
	演習室(1)	18	1,000円	1,300円	1,000円	3,000円

【附属設備使用料】

品名	単位	使用料
		午前・午後または夜間 (1区分をご利用の場合)
オーバーヘッドプロジェクター	1台	400円
液晶プロジェクター	1台	600円
スライド映写機	1台	400円
拡声装置	一式	400円
ビデオ・ブルーレイ・ラジカセ・DVDプレーヤー・録音設備	1台	100円

●午前・午後など複数の区分をご利用の場合、使用料はこの表の2倍、全日はこの表の3倍に相当する金額になります。



大阪ボランティア協会のはじまり①

本稿は三話完結の第一話です。

大阪ボランティア協会は、1963(昭和38)年頃に胎動が始まり、1965(昭和40)年に正式に発足した日本で最も古い市民活動推進センターです。協会の最初の拠点は、阿波座の日生病院内にある「日本生命済生会」社会事業局にありました。協会の初代事務局長は、この日本生命済生会社会事業局の初代局長で、定年退職後に事務局長に就任します。

ボランティア協会の最初の事業は、ボランティア講座を開催することでした。当時「ボランティア」という言葉は日本の辞書にはありません。最初に載ったのは1969(昭和44)年です。組織名は「大阪奉仕活動協会」の方がわかりやすかったと思いますが、私どもは「ボランティア」という言葉にこだわりました。「ボランティアは奉仕ではない」ということを訴えたかったのです。第1回のボランティア講座の第1講目に「ボランティア活動と民主主義」を打ち出し「月刊ボランティア」という啓発誌も発行していきました。

60年代に入り、先代の理事長、岡本榮一氏が事務局長に就任しました。この頃は、経済的な問題を抱え、有給職員は3人だけ。このため協会では事務局だけに任せず、ボランティアが自力で講座の企画・進行、講師の依頼を行うなど協会の運営にも関わっていきました。市民参加の進んだ組織になっていたのです。現在、職員は約20人ですが、ボランティアスタッフ約200人も参加して協会の事業を推進しています。中には職員を採用するときの選考委員になる人もいます。これを「参加システム」と呼んでいます。

60年代は、いろんな講座を立ち上げ、「ボランティアというのは民主主義をつくるために必要な存在で、単なるお手伝いではない」という理念を広めていました。この理念を具体的な形にしていくのが70年代です。

ボランティア協会の中に「大阪交通遺児を励ます会」というボランティアグループが誕生します。初代の代表は後に国会議員に

なる故・山本孝史さんですが、その会が発足する経緯は次のようなものでした。ある時、秋田大学自動車部の学生が交通事故で父親を亡くした「交通遺児」が学校に行けるように奨学金を贈る「交通遺児育英会」をつくる運動を始めます。当時、交通遺児家庭の9割以上は母子家庭でした。子どもは小さく、母親がきちんとした職を得ることが難しいため生活に困っていたのです。その時に自動車部の学生さんが大阪ボランティア協会まで来て、「ここを拠点に運動を広げさせてほしい」と頼まれました。そこで岡本事務局長は、当時、心齋橋にあった木造モルタル2階建て事務所の3畳の間に学生たちを寝泊まりさせたのです。3畳の間が、関西の大学に運動を広げ母子家庭問題を解決するための運動の拠点になりました。

障害のある人たちが、車いすでまちに出て行くことが多くなったのも、この頃です。当時は、車いす障害者が外に出ると「障害者が施設から逃げてきた」と交番に通報がありました。そういう時代でした。しかし、駅のプラットフォームから落ちて電車にひかれそうになったりしながらも、1人で町に出ていく自立した障害者が少しずつ増えてきました。そういう人たちが協会に顔を出すようになるのです。

ちょうどその頃、大阪市営地下鉄の延伸工事計画が進んでいました。ある政党の議員のチラシで「この地域に地下鉄が延びる」という情報を得て、協会のメンバーは「地下鉄ができたなら、障害者が利用でけへん」と恐れを抱きました。そこで障害者運動家の牧口一二さんらが「誰でも乗れる地下鉄をつくる会」を設立し、地下鉄にエレベーターを設置する運動が始まったのです。地下鉄をつくるなら一緒にエレベーターをつけるようにと交

通局に要望しに行きました。

もちろん、交通局は赤字でしたから「すぐに地下鉄にエレベーターつけましょう」とはなりません。そこで地下鉄の階段が障害者にとっていかに大きなハードルかということを知ってもらうために、交通局の幹部に車いすの試乗体験してもらいました。「車いすの方が地下鉄の階段を降りるときは、こうやって降りるんです」と、普通とは逆に後輪を後ろにし、下が見えない状態で、怖い思いをして降りてもらいました。迫力を出すために大げさにアピールしたわけですが、障害者にとって階段が大きな負担になっていることは気づいていただきました。

しかし、多額の工事費がかかることから、すぐに、エレベーター設置とはならない。市の財政担当部署の了解を得るのが大変なんです。

そこで思い出したのがマザーテレサの「愛情の反対は憎悪ではない、無関心である」という言葉です。よく考えれば、我々と交通局の担当者とは、地下鉄にエレベーターをつくることに「関心を持っている仲間」なんです。問題は無関心層なんです。ですから、当初は対立したものの、そのうちに市役所内でエレベーターの重要性への理解を広げるために連携しました。そして妥協案がまとまりました。「梅田駅や難波駅のエレベーター設置」という我々の要望はすぐにはとおりませんでした。「新設の駅ならば安くできる。まず、谷町線が八尾南に延びているので市心身障害者リハビリテーションセンターがある喜連瓜破駅に設置しましょう」ということになったのです。こうして1980(昭和60)年、日本で初めて地下鉄駅にエレベーターが設置されたのです。

筆者は、障害者は、社会的な環境面での障害に立ち向かっている人たちであって、害をひらがなにすれば、その意味が違ってくるので、「障害者」と害を漢字で書いています。これは障害学会の主張が合理的だと考えるからです。

※この稿は大阪市社会福祉研修・情報センターで開催された「社会福祉史の市民講座」の講演(講師:早瀬昇 大阪ボランティア協会 常務理事)の聴き取り(言葉については歴史的事実として当時の表現をそのまま使用しています)から抜粋したものです。



図書紹介

『朱書き解説付き
事例で見る自立支援型ケアプランの書き方』

石山 麗子 著 ひかりのくに 2012年
改正された制度と新しいサービスの考え方を解説し、それを組み込んだ自立支援型ケアプランの例を5人分の事例と朱書き解説で示している。



『虐待・精神疾患・クレーム 困った場面の打開術』

塩澤 百合子 他 著
日総研出版 2012年

ニーズを導く面接のコツとポイントから、精神症状・疾患の病態理解、高齢者虐待、クレーム対応とトラブルを未然に防ぐ法的知識まで、相談員やケアマネジャーに役立つ相談面接の知識と技術を解説。



『認知症サポートハンドブック 認知症の世界へようこそ』

苛原 実 著
ヒポ・サイエンス出版 2012年

認知症の基礎知識と考え方をわかりやすく解説。BPSDに対する考え方、BPSDの対処法を事例とともに具体的に説明。



DVD紹介

『サービス提供責任者の業務理解2008』

キャリア教育プラザ 140分 2008年
介護予防を含む業務一連の流れをわかりやすく解説している。講義形式。
■講義「サービス提供責任者の業務理解」 ■演習「訪問介護計画の作成とモニタリング」



『生きること口から食べること』 上巻

三輪書店 97分 2010年
看護師・言語聴覚士・栄養士・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士が地域の訪問現場で家族や介護従事者に指導する内容で、意思疎通困難・認知症・嚥下障がい者への食事介助方法や、洗口のできない方への歯磨きなどを収録。



『ルイーサ』

TOボックス 110分 2011年
ブエノスアイレスの街と地下鉄を舞台に、ペットの猫の死や失業を乗り越え、何とか生きぬこうと奮闘する女性の姿を描く、アルゼンチン映画。



図書・資料閲覧室臨時休室のお知らせ

図書・資料閲覧室では、書籍・資料などの整理のため、
平成24年12月26日(水)～平成25年1月3日(木)
まで臨時休室といたします。

なお、12月26日～28日の図書・視聴覚資料の返却は、
1階事務室で受付いたします。
ご理解とご協力よろしくお願いいたします。



大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書・DVD・ビデオなどを、無料で貸出しております。(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉関係の雑誌などが充実しています。)

開室時間：月曜日～土曜日 午前9時30分～午後5時
休室日：日曜日・祝日(土曜日は除く)・年末年始
☎06-4392-8233



禁煙チャレンジ

～タバコをやめたいあなたをサポートします!～

喫煙は、肺がんをはじめとする多くのがんや心筋梗塞などの心臓病、歯周病などたくさんの病気の危険因子であることがわかっています。さらに受動喫煙といって周りの人の健康にも悪影響をおよぼします。



しかし、簡単にやめられないのがタバコです。それは心理的な依存とニコチン依存があるためです。今まで何度も挑戦して失敗している方も、決して意志が弱いからではありません。適切なサポートがあれば成功率はアップします。今まで禁煙しようと思ってもなかなかできなかった方!正しい知識と禁煙に役立つ情報を提供しながら、保健師があなたのチャレンジを支援します。ぜひこの機会に禁煙を始めましょう!

●禁煙教室の内容は?

- ①初回は、タバコ検査(尿中のニコチン濃度の測定・吐き出した息の一酸化炭素濃度の測定)の後、保健師との個別面接でご自身にあった禁煙方法を話し合います。
- ②禁煙開始から3カ月間、保健師が、禁煙継続に向けたアドバイスを電話、手紙などで行います。禁煙達成者には修了証をお渡しします。

●参加対象となる方は?

大阪市内在住で、禁煙に関心があり、できるだけ早くタバコをやめたいと思っている方。

●場所・日時は?

大阪市保健所で、毎月第3水曜日の午後から開催します。時間は別途ご案内いたします。



お問い合わせ / 大阪市保健所管理課

☎06-6647-0650 (受付:午前9時~午後5時30分まで)

今月の自助具

資料提供
HUMAN universal design office 岡田英志さん

足付きコップ

主な適応疾患・対象者

- 手の力の弱い方、誤飲をしやすい方。

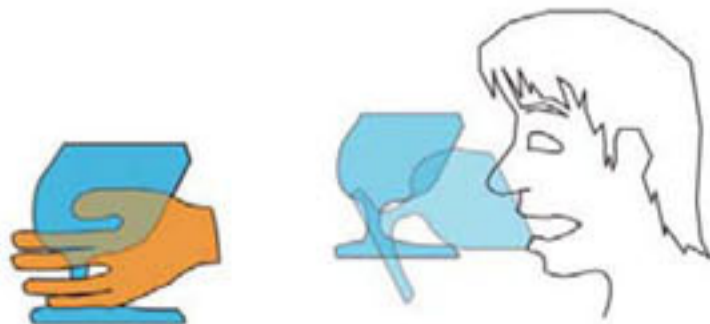


機能・特徴

- 落としにくく、手の負担が少ない。
- 動作誘導型の食器なので頭部を上げずに、少し傾けただけで飲める。

使い方

- コップの足部に指を差し込み、コップをすくう形でホールドする。
- あごを引いたままコップを傾けて飲む。



問合せ 大肢協ボランティアグループ・自助具の部屋 ☎06-6940-4189 (月・水・金 10:00~15:00)

健康生活 応援グッズ

家の中で安全に過ごすために

置くだけで起き上がりや立ち上がりをサポート



◎たちあっぷCKA-13

ベッドからの立ち上がりや歩き出しをサポートしやすい、床据え置き型L形状の手すりです。ふちゴムがスロープ形状で、安定感も向上。マットが標準装備され冷たく感じさせません。

人間工学に基づいて設計された洋式便器用ですり



◎トイレエイド・ネオ

便器に直接取り付ける洋式便器用手すりです。手すりの位置が低く、立ち座りがしやすく、座ってからの保持もできます。足元に障害物がないので、狭いトイレでもご利用できます。

玄関での昇り降りに不安がある方に



◎アットグリップAT-E-50

しっかり握れて、安全に昇降ができる上がりかまち用手すりです。上がりかまちを挟み込む構造なので、ネジ穴が残らず、必要な時に素早く設置できます。6段階の高さ調節も簡単。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会 事務局
〒542-0065 大阪府中央区中寺1-1-54
大阪社会福祉指導センター2階

☎06-6762-7895 FAX 06-6762-7894
<http://kansil.jp>

開館日・時間、休館日

開館時間 / 午前9時から午後9時まで(土・日曜日は午前9時から午後5時まで)
 ただし、展示ギャラリー、図書・資料閲覧室は午後5時まで

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

●それぞれの開設日・時間

項目	直通電話番号	開設日(休館日を除く)	開設時間
会議室など利用の問い合わせ	06-4392-8200	毎日	午前9時～午後9時(土・日午後5時まで) (会議室の申込・お支払いは午前9時30分～午後5時)
研修関係の問い合わせ	06-4392-8201		午前9時～午後5時
図書・資料閲覧室	06-4392-8233	月～土曜日	午前9時30分～午後5時

貸室ご利用の皆様へ

大阪市社会福祉研修・情報センターでは、貸室ご利用の皆様により計画的に便利にご利用いただくため、空室状況を公開し、FAXによる申込みを受付けています。

① 空室状況をホームページに掲載しています。

空室状況は、ホームページの「センターご案内」→「貸室利用のご案内」→「空室一覧」に、PDFで4カ月分掲載。

URL / <http://www.wel-osaka.jp/>

② 利用申込の受付は4カ月前からです。

利用日の4カ月前から、電話や直接窓口で予約いただいたうえ、所定の用紙で申し込みください。

受付時間は午前9時30分から午後5時まで

☎06-4392-8200

●FAXによる申し込み手続きの手順

FAXによる申込は、ホームページの「センターご案内」→「貸室利用のご案内」→「FAXでのお申し込み」に、申込手順を掲載しています。

FAX 06-4392-8206

※ファックスでの申し込み可能な期間は、利用日の4カ月前の午前9時30分から利用日の3日前までです。



交通 / ご来所には【市バス】【地下鉄】【JR】をご利用ください

●市バス

「長橋二丁目」バス停すぐ
 7系統(あべの橋～住吉川西)・
 52系統(なんば～あべの橋)
 赤バス(西成西ルート)

●市営地下鉄・四つ橋線

「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分
 「大国町」駅(⑤出口)から徒歩約15分

●JR大阪環状線・大和路線

「今宮」駅から徒歩約9分

「ウェルおおさか」の主な設置・配布場所

区在宅サービスセンター(区社協)、区老人福祉センター、区子ども子育てプラザ、区役所、区民センター、大阪市内の図書館、大阪市サービスカウンターなど

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号
 設置主体 / 大阪市
 運営主体 / 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
 (指定管理者)

電話 / ☎06-4392-8200 (代表)
 ファックス / ☎06-4392-8206
 URL / <http://www.wel-osaka.jp/>